

授業科目名	法学政治学演習	※選 択	開講年次	2	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	刑法に関係する基本判例を「読む」	担当者	百合草 浩治			
講義概要	<p>【概要】 本演習では、刑法に関係する判例を、「読む」ことを内容とする。 ここでいう「読む」ということは、判決文をただそのまま通読するということではなく、①その背景にある諸事情や、②従来の関連判例に対して、どのような意義を有しているのか、③その後の学説・裁判実務にどのような影響を与えているのか、などを踏まえながら、当該判例を多面的な角度から考察し、理解することを含んだものである。</p> <p>【到達目標】 この演習の本来的な目的は、文書作成能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上、そして、その前提となる情報の収集・処理能力の向上である。 また、多様な視点・角度から物事を洞察し、的確な判断を下すことができるようになるための知的かつ実践的なトレーニングの場としたい。</p>					
履修条件	特になし					
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に、指定はしない。 【参考書】 西田典之ほか(編)『刑法判例百選Ⅰ 総論[第6版]』[別冊ジュリスト 189](有斐閣) ※ 旧版を含む 西田典之ほか(編)『刑法判例百選Ⅱ 各論[第6版]』[別冊ジュリスト 190](有斐閣) ※ 旧版を含む 曾根威彦ほか(編)『基本判例⑤刑法総論[第2版]』、『基本判例⑥刑法各論[第2版]』(法学書院) 西田典之ほか(編)『判例刑法総論[第5版]』、『判例刑法総論[第5版]』(有斐閣) 前田雅英『最新重要判例250刑法[第7版]』(弘文堂) ※ 旧版を含む 大谷實(編)『判例講義 刑法Ⅰ 総論』、『判例講義 刑法Ⅱ 各論』(悠々社) 成瀬幸典ほか(編)『判例プラクティス 刑法Ⅰ 総論』、『判例プラクティス 刑法Ⅱ 各論』(信山社)</p>					
授業内容	<p>各判例について、担当者が冒頭に判例の概要を報告し、それについて参加者全員で議論をする、という形式をとる。</p> <p>扱う判例については、刑法総論・刑法各論の領域には限定せず、特別刑法その他、いずれにせよ刑法に関係するものを予定している。前期の前半部分は、担当教員の方から指定するが、それ以後は、当然、参加者の要望などを考慮に入れながら、決定することにしたい。</p> <p>なお、前期に前半部分においては、①因果関係、②不作為犯、③安楽死・尊厳死、④略取・誘拐罪、⑤住居侵入罪に関する判例を「読む」ことから、始める予定である。</p>					
評価方法	<p>受講態度などを総合的に判断する。 少なくとも、担当の回に欠席した場合には、原則として、単位認定ができないので、くれぐれも注意すること。</p>					
評価基準	<p>原則として、80パーセント以上の回に出席していることを単位認定の前提とする。担当したテーマにつき、よく理解し、自己の見解を適切に表現できた者については「A」とする。理解度や表現内容がなお十分とはいええない者はその程度に応じて「B」または「C」とする。担当したテーマにつき、理解の度合いや報告内容が最低限度に達していない者については、その程度に応じて「D」または「E」とする。</p>					
その他	※Eカリキュラムの学生は選択必修科目					